



丹波竜化石工房拡充基本計画 概要版

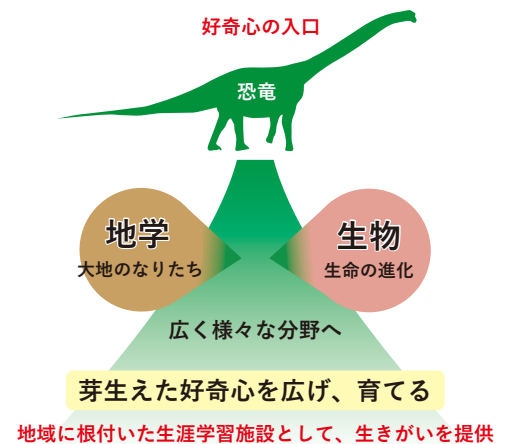
令和5年3月

■基本理念

自然への好奇心を育み、地域に深く根付いた生涯学習施設

多くの人が興味を持ちやすい“恐竜”というテーマを入口とし、地学や生物学を中心とした自然科学など様々な分野へと好奇心を広げ、新たに芽生えた好奇心をさらに育む活動を、市民をはじめ多くの人々を対象として展開していきます。

これら教育普及活動は地域に深く根付いている必要があります。地域住民に生きがいを提供することができます。そのためには、篠山層群をはじめとした丹波の地質や化石を用いた教育普及および情報発信により、地域のニーズに合わせた活動を行いながら社会貢献につなげていかなければなりません。



■新たに求められる機能と役割、活動内容

新館は基本理念のもと、地域の地質と化石資料を用いた活動を展開し、教育施設や観光施設などとも連携を行うことで、地域活性化に貢献し、市民に憩いの場や交流の場を提供します。この目的を達成するため、新館は①資料の収集活動、②資料の保管活動、③教育普及活動、④展示・公開活動、⑤市民交流活動という5つの活動内容を基礎とし、丹波の地質や化石を用いた教育普及および情報発信を行います。

①資料の収集

教育普及活動に活用することを目的とした資料や標本を収集します。

②資料の保管

収集された資料は保管・整理し、いつでも活用可能な状態にします。保管する資料は、外部組織にも貸出可能とします。

③教育普及活動

収集・保管した資料を活用し、市民をはじめ様々な人々を対象とした教育普及活動を実施します。また、市内の生涯学習施設等とも積極的に連携し、活動の場を市内全体に展開します。

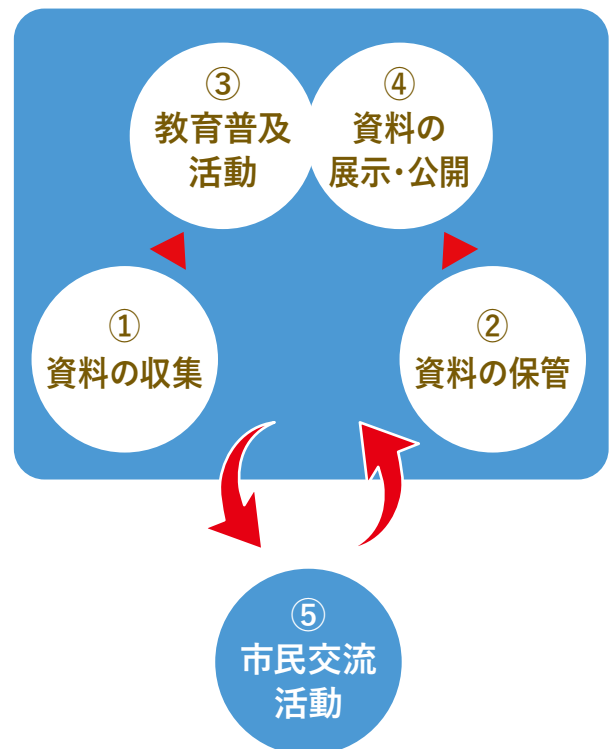
④展示・公開活動

収集・保管した資料を館内に展示します。館内の展示は、施設の基本理念や目的のもとに企画・運営し、展示は主に「常設展示」、「臨時展示」、「特別展示」の3つに分けます。

⑤市民交流活動

学習プログラムやイベントを通じて多くの人々との交流の機会を増やします。

基本的な活動
丹波の地質や化石を用いた教育普及
および情報発信



地域へ向けた活動

■展示コンセプトとストーリー

展示コンセプト

過去を知り、今を学び、未来を拓く

新館の展示は「過去を知り、今を学び、未来を拓く」をコンセプトに、丹波の地質や化石をととして「大地のなりたち」と「生命の進化」の3億年をたどります。人類の歴史だけでは語りえない長い時間軸で丹波の自然について学ぶことで、過去から今、そして未来へと続く丹波市の自然史を見つめなおす新たな視点を提供します。

●プロローグ ～丹波3億年の旅～

- ・地球と生命の歴史
- ・丹波市の大地と生命

●大地のなりたちゾーン

丹波のいま

- ・地形と地質図
- ・岩石の分類
- ・市内6地域を代表する岩石や地質
- ・人々の暮らしと地質の関係性

大地のなりたち

- ・地球の歴史
- ・太古の環境の移り変わり
- ・地層ができる仕組み
- ・化石ができる仕組み



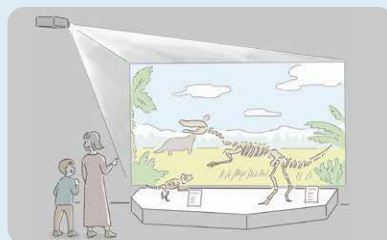
●丹波の化石ゾーン

化石紹介

- ・丹波の地質・古生物史
- ・丹波竜の発見
- ・篠山層群の化石紹介
- ・丹波の化石紹介

地域の取り組み

- ・発見～研究発表までの流れ
- ・地元の人々の活動
- ・丹波竜化石工房のこれまで



●生命のあゆみゾーン

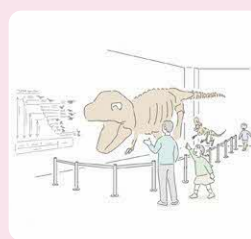
脊椎動物とは

- ・脊椎動物の進化史
- ・脊椎動物の分類
- ・脊椎動物の体の仕組み
- ・現生種と化石種の違い



恐竜の進化

- ・恐竜とは何か
- ・恐竜の分類
- ・竜脚類の進化
- ・角竜類の進化
- ・獣脚類の進化



●エピローグ ～再訪、丹波市の自然～

- ・丹波の自然を過去から学ぶ
- ・現在もつづく丹波の発掘調査
- ・丹波の生涯学習施設紹介

丹波市の自然を再発見

丹波市のその他生涯学習施設

■展示空間のイメージ

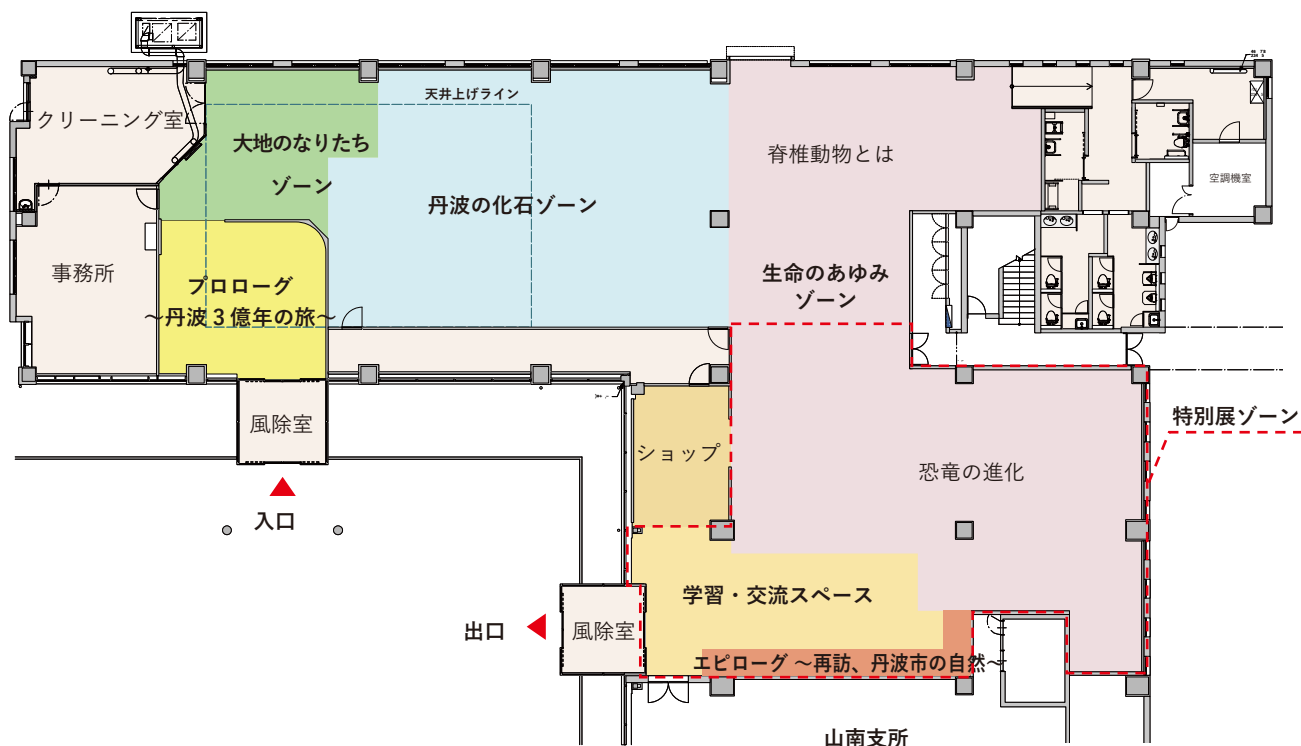
①常設展示

展示空間を5つのゾーンに区分し、丹波地域の地質と化石、生命の進化を中心とした展示を行います。

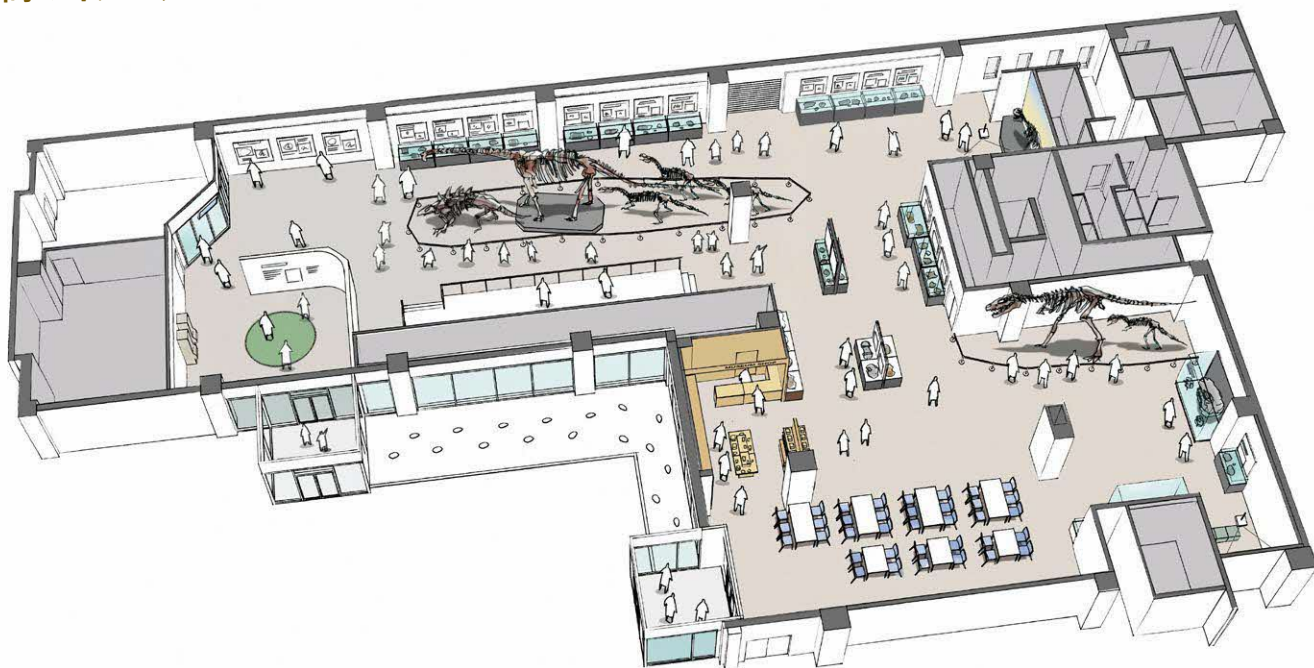
②特別展示

特定のテーマや内容、規模などを設定し、化石や生物資料などの標本を他館からも借用しながら展示を行います。恐竜の進化の什器類を移動させ、展示空間とします。

■ゾーニング構成



■空間のイメージ



■各ゾーン内容

1. プロローグ～丹波3億年の旅～

地球の始まりから現在までの46億年の歴史を説明し、丹波の大地3億年の歴史と、現在の自然について紹介します。展示概要を説明し、来館者を館内へと導入します。

2. 大地のなりたちゾーン

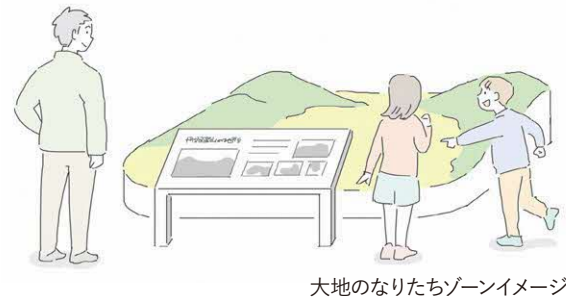
岩石標本や丹波の地質図 3 次元ジオラマなどを展示し、丹波市の地形や地質について紹介します。地学の基礎を学べるように、岩石の分類、地層や化石のでき方などについても分かりやすく解説します。

また、市内 6 地域を代表する地質を詳しく紹介することで、市民は郷土への親しみと愛着を育むことができ、市外の来館者は丹波市の新たな側面を発見することができます。

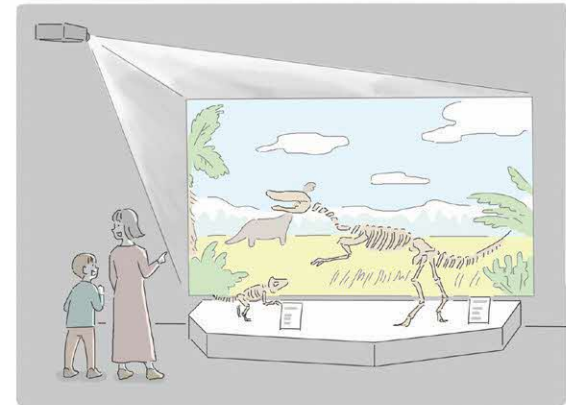
3. 丹波の化石ゾーン

丹波からみつか化石、丹波竜発見の物語や化石発掘の歴史、発掘調査の成果や地元の人々の活動について紹介します。

また、丹波竜全身骨格を中心に、前期白亜紀の恐竜たちについても紹介します。



大地のなりたちゾーンイメージ



丹波の化石ゾーンイメージ

4. 生命のあゆみゾーン

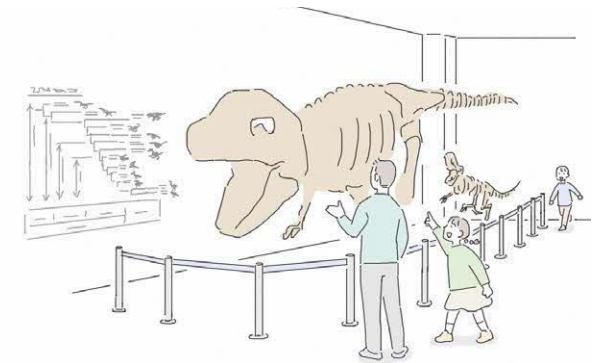
生命のあゆみについて「脊椎動物とは」と「恐竜の進化」に分けて解説します。「脊椎動物とは」では、脊椎動物の起源と進化の歴史の概要、魚類、両生類、爬虫類（恐竜も含む）、鳥類、哺乳類のからだのつくりや分類、進化について紹介します。「恐竜の進化」では、篠山層群から見つかった主要な恐竜や、現代につながる恐竜の進化について紹介します。

5. エピローグ～再訪、丹波市の自然～

3 億年の時を経てつくられた丹波市の大地には、現在さまざまな生物が生息しています。里山にはカエルやトカゲ、鳥、シカやイノシシなどが生息しており、それらすべてに絶滅と繁栄を繰り返した長い進化の歴史が存在します。これまでの展示ゾーンで紹介された丹波の地質や化石についての学びを整理し、丹波市の大地とそこに暮らす生き物たちへの新たな視点を提供します。過去を学び、今を再発見することは、未来の自然について考えるきっかけとなります。

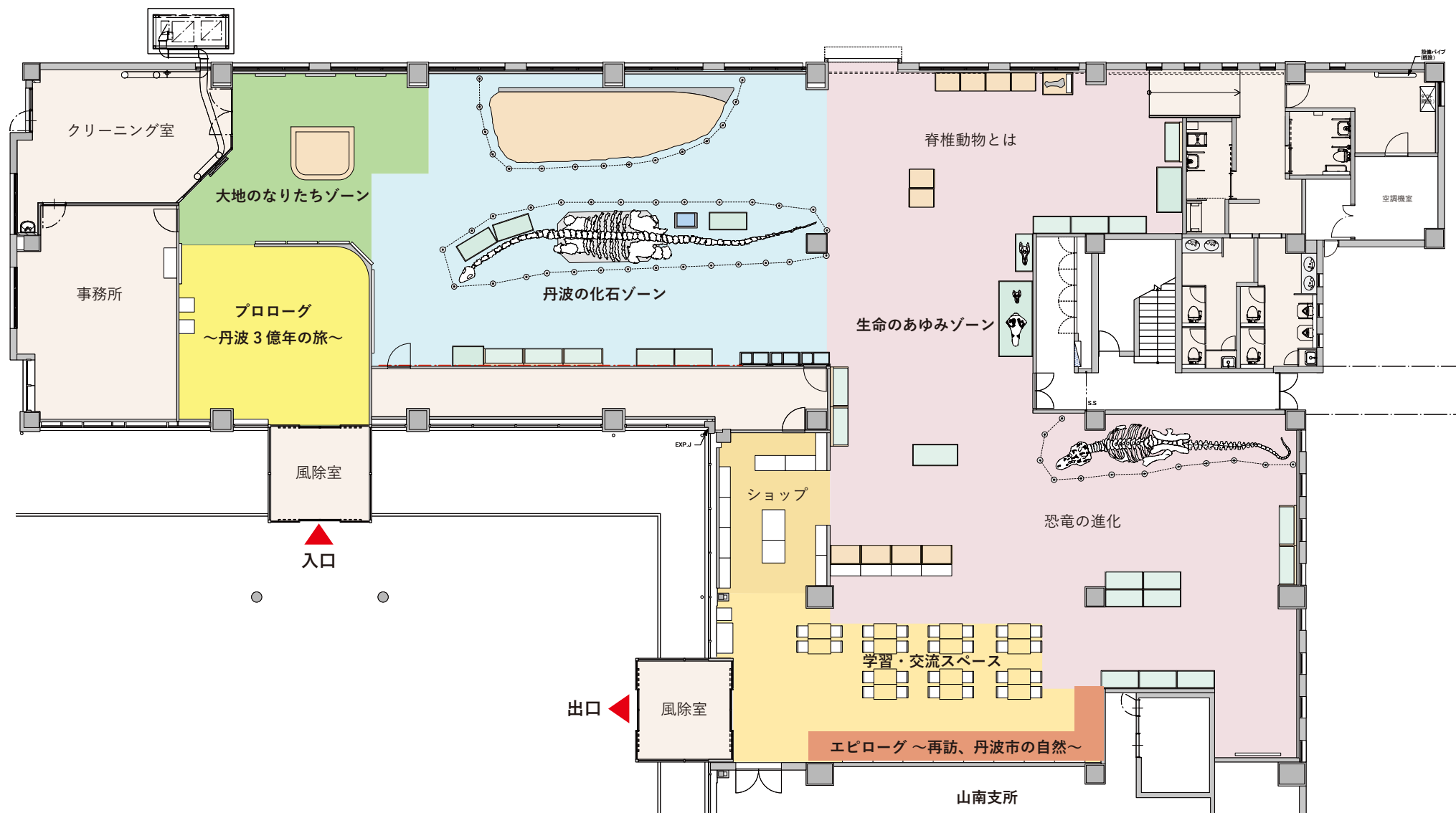


生命のあゆみゾーンイメージ



生命のあゆみゾーンイメージ

■平面レイアウト例



■施設拡充のポイント

活動計画、展示計画を実施するために必要な施設拡充を行います。

◆展示に関するポイント

丹波の自然や地質に関する展示の新設

「大地のなりたち」や「生命の進化」について、市内小学校等の児童・生徒を含めた来館者が身近に感じ、学習することができるよう、丹波の地質や化石を活用した展示を新設します。

篠山層群の地質や化石の展示の新設

篠山層群から発見された化石、丹波竜をはじめ恐竜卵化石や令和3(2021)年度発表されたトカゲ類化石等、今後新たな化石発見に関する展示を行い、篠山層群産化石の情報発信及び教育普及の充実に図ります。

脊椎動物の進化史についての展示の新設

人も含めた“脊椎動物”の起源からその進化史を紹介します。様々な動物の骨格について学ぶ展示内容を新設することで、脊椎動物の「体のつくりとはたらき」や「生物の進化と分類」についての教育普及の充実と、篠山層群から見ついている古生物についての理解度の向上を図ります。

◆資料の収集・保管に関するポイント

倉庫(バックヤード)の増床・整備

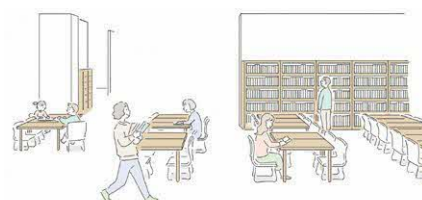
骨格標本や什器等を保管するために、100 m²程度の倉庫を整備します。

◆来館者のスムーズな施設利用に関するポイント

学習・交流ゾーンの設置

地質や化石についての学習を館内で行えるように、絵本や入門書、専門的な書籍を置き、多くの来館者が利用できる自習スペースとします。約30名程度の机や椅子を設置することで、来館者が休憩や交流のスペースとして活用することができます。

また、スクリーンやプロジェクター等を用いたセミナールームとして活用することもでき、特別展開催時には什器類を移動させることで展示空間として使用します。



学習・交流ゾーン イメージ

見学順路の確保

スムーズな見学動線を確保するため、入口は現状のものを利用し、出口を支所横に新たに設置することで出入口を2箇所に分けます。

感染症への対応

動線の整理や非接触での体験展示等により、感染症流行時での運営にも対応できるよう配慮します。

券売機

券売機をキャッシュレス対応可能なものに変更するなど、市全体で取り組むDX推進計画に対応します。

授乳室

子育て世代も安心して来館できるように整備します。

■施設拡充の場所

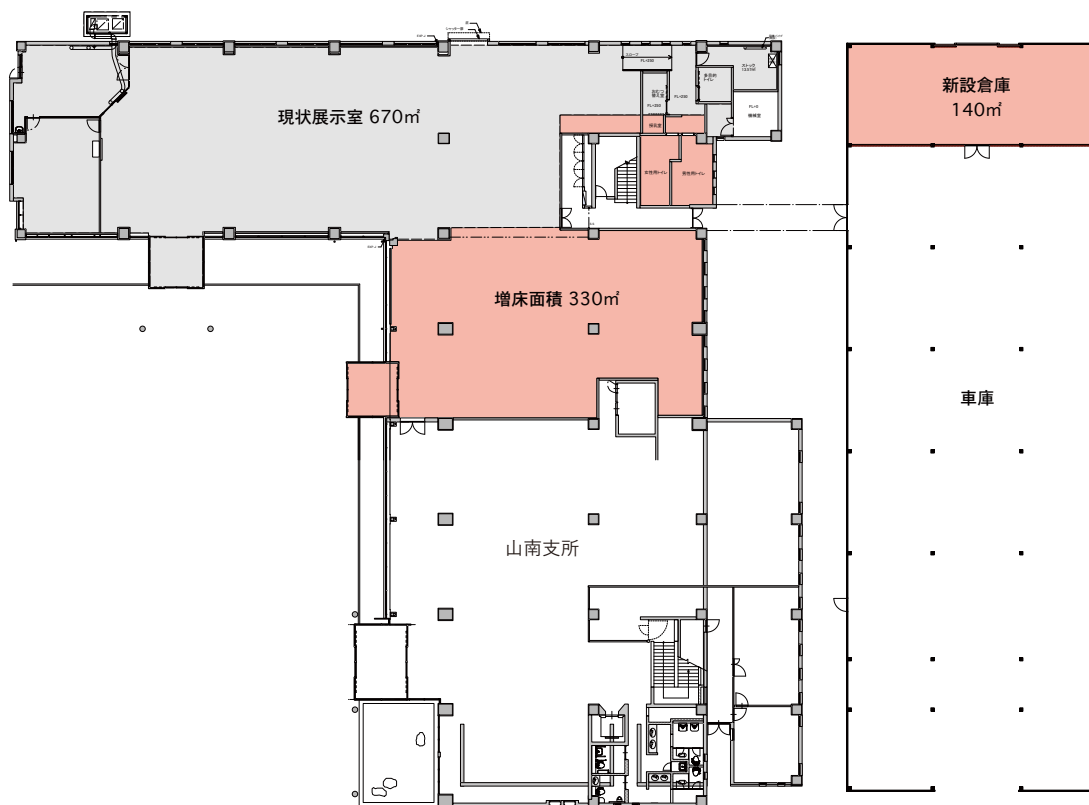
現館の継続活用、山南庁舎の有効活用、拡充後の施設の効率的な維持管理、市民の利便性などの観点から、施設拡充場所について以下のとおりとします。

- 所在地：兵庫県丹波市山南町谷川1110
- 丹波市役所山南支所西側 社会教育・文化財課、会議室等のスペースを活用(約330m²)
- 車庫に別棟倉庫を設置(約140m²)



施設外観

■施設拡充の範囲・面積



工事予定範囲
(丹波市役所山南支所庁舎)

拡充による構成・床面積の変化

	現状	新規施設面積構成
常設展示	481㎡	719㎡ 生命と進化、恐竜の進化、学習・交流ゾーンを新設
クリーニングルーム	51㎡	51㎡ 変更なし
ミュージアムショップ	10㎡	29㎡ 増床部分へ移設
事務所	46㎡	56㎡ 現ショップ部分を拡張
展示室内倉庫	36㎡	50㎡ 展示室内に新たに整備
トイレ	31㎡	65㎡ 現状の職員トイレを客用トイレにレイアウト改修。授乳室を新設
風除室	15㎡	30㎡ 新たに出口を設置
別棟倉庫	—	140㎡ 現公用車駐車場スペースに倉庫を新設
展示室・倉庫他延べ床面積	670㎡	1140㎡ 増床部分に生命のあゆみ、学習・交流ゾーン、ショップ、出口



施設内観

■建築設備改修の基本的考え方

- 来館者にとって開放的で分かりやすい平面構成とし、展示・研究だけでなく、教育普及活動事業など人的交流が可能な空間とします。
- 様々な層の来館者に対応した安全・安心・快適な施設となるようユニバーサルデザインの空間づくりを行います。
- 公共施設の使命として低炭素型施設を目指し、建築設備の仕様や維持管理については計画段階から十分に環境に対する配慮を行います。

《設備等詳細》

- LEDにより展示等の照明効果を最大限に引き出した照明の設置。
- 電子マネーやクレジットカード等にも対応できる券売機の導入。
- 防火扉の設置法令に基づいた支所との区画仕切壁の設置。
- 支所空調設備の改修に伴う配管や給排気等の設置及び展示空間に適した空調設備の設置。
- 標本の保管等収容量を確保するために面積を有効活用した倉庫(バックヤード)の設置。

5. 開館へ向けて

■実施設計に向けての条件整理

- 展示実施設計及び施設・設備改修への条件整理の実施にあたっては、建築に係る設計業務や既存建築物等、建築設計の受託者と情報共有と調整を図るとともに、現地の状況等の調査を行うものとします。
- 展示エリアは、展示内容にストーリー性があり、導線整理された展示空間とします。
- 倉庫エリアは、標本資料や、各備品などが保管・管理できる使いやすい設備とします。
- 各設備関係は、関連法規に準拠した設計とします。

■リニューアル後の管理運営について

- リニューアル後の運営活動については、展示面積の増床による標本整理や資料管理、調査による資料管理・学習プログラムの充実のため、学芸員をはじめとする専門人材の確保や館内スタッフの増員が必要となります。
- 常設展示や特別展の企画・運営、教育普及のための学習プログラム開発・実施については、学芸員を中心に、他の生涯学習施設との連携を図ります。
- 常設展示、特別展示の充実に伴い、入館料について検討します。

■事業スケジュール

- 令和4(2022)年度 基本計画策定
- 令和5(2023)年度～令和7(2025)年度6月まで 実施設計・施工
- 令和7(2025)年7月上旬 リニューアルオープン(予定)

■拡充工事概算費用

概算工事費(建築、設備、展示等に係る工事費) 451,000,000円(税含)